

文斗委の挑発的カンズメ団交を糾弾する。

三全学連支持会議三

封鎖糾弾、民主化、自主解決にむけて学生大会を。

文斗委一派は一週間以上も文教授会をつるし上げ団交を行ない教官をなぐるといつた暴挙まで行ない、教官がそれに對して追求すると丁暴刀がなんで悪いんやにといった、ハレンチな言葉まであたり前としてでてくるといった狂暴性を孤立を深める中で、おびてきている。この中で明確に表われている教授会と反動の手先という理論は明らかに真の敵は政府自民党をあいまいにするもので、反動的なものである。彼らは次のように言つ。丁大学も資本主義は制内に規定されている以上、資本の論理は当然貫徹されていく。政府独口の支配は教授会を通じて常に貫徹されてきた。故に我々は教授会をつるし上げ、教授会を解体せねばならぬといふ。

我々はここで、再度現在の大学紛争の原因が政府文部省の反動的で貧困な文教政策に存する事を確認する必要がある。その中で予算の削減、文部官僚の横暴により、学、軍学協同が押し進められ、学問研究、教育が極端状態となりつつあり、さらに、学内の管理運営の非民主性により、大学の反動化がますます深化されてきた。

このように、大学の自治が大きく侵害されつつある原因を具体的に分析していくならば、学内における敵は、政府文部省と結ぶた一部の反動教官と文部官僚であるだろう。科学に対して学問に対して良心的な多くの教官も、やはり、今の政府の反動的な政策の下においては被害者なのである。だからと言って、我々は何も教官が今のままで十分よいか言っているわけではない。今まで教授の座に安住して、学問研究に精力を注いでいなかった教官、政府文部省の攻撃に、批判的行動立場をとっていなかった教官連は、十分に自己批判する必要があるだろう。

我々の現在の課題は、全学連団結して、政府反動勢力の大学の自治・学問研究破壊攻撃を断固粉碎し、民主化を押しすすめていく勢力を形成する事である。

教授会と敵論による文斗委一派の無期限な無展望な教員会団交が現在において、はたしている役割は、学内において基本的に我々学生、院生、職員と共に共斗出来る教官を敵対関係におき、学内統一戦線の破壊行動を行い、真の敵は政府自民党をあいまいにするという、非常に日和見、又な犯罪的な戦術である。そして彼等が結局のところねているものは、機動隊の学内導入であり、それにより、弊は、今の無展望な状態から大学当局をつるしあげ、一戸大学を内乱騒乱状態へと押し進め、大学解体し全学バリッド封鎖を貫徹し、挑発策動の場へと化せようとしているのである。

我々は、再三彼らの策動を糾弾し、これでは絶対に我々が押し進めようとする民主化は絶対に勝ちとられないどころか、逆に政府の大学破壊攻撃に敗北するであろう事を痛く痛く痛めてきた。文斗委一派は団交で授業再開は斗争收拾策動であるといっているが、実は、今の我々の封鎖された状態こそが斗争收拾策動なのであることをまず認識する必要がある。

我々は、今の民主化斗争が学問研究のあり方、授業内容、カリキュラムの改善、管理運営の民主化、自治権の確立、拡大斗争、その他大学全体にわたる改革である以上、それを内容のあるものとするためには、学生、院生、教職員がすべて討論を重ね、英智を注いで実践を通じてはじめてなしとげられるものだろうと考えている。それをなすためにも、授業再開は非常に重要なものとして位置付けられるのである。

- ★全学連友諸君、今や全共斗、文斗委一派を断固糾弾し、自主的に今の事態を解決し、政府の大学弾圧立法粉碎と市大の民主化を押し進めるために総団結で立ちあがろう
- ★文斗委はただちに暴力的カンズメをやめよ
- ★文学部教授会は文斗委との団交を停止し、彼らとの交渉を一切行なうな
- ★民主的学生大会で自主解決を